

道徳学習指導案

日 時 平成30年6月1日(月)
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年B組40名
会 場 1A3A教室
授業者 佐々木 淑乃

- 1 (小単元的) ユニット名 『好き』ってどんな気持ち? (全3時間)
題材名 「まるごと好きです」 【B(9) 相互理解, 寛容】(本時2/3時間目)

2 ユニットについて

(1) 生徒観

2年生になり、クラス替えを経て、新たなメンバーでの生活が始まって2か月が経った。新たなメンバーでの活動には、大きな抵抗もなく、協力して頑張ろうとする姿が見られる。一方で、これまで関わりの少なかったメンバーに対して、苦手意識を持ち始めている生徒もいる。また、人間関係においては、自分と合うか合わないかで相手を批判してしまったり、自分の好き嫌いで物事の判断をしてしまうこともしばしばみられる。

また、中学2年生というこの時期、恋愛にも興味を持ち始め、好きという言葉を知ると、男女の関係をイメージする生徒も多い。ところが、男女での考え方の違いや、時には人を傷つけてしまうことにつながるということに気付かずに、面白がっている生徒も見られる。また、批判的な思考で物事を判断する傾向があるのも、この時期の生徒たちによく見られ、意味をよく考えずに、マイナスな言葉で人、物、事を評価してしまうこともある。

道徳の授業においては、自分の考えをシートに書き表し、グループでの話し合いの中では自分の考えを話せる生徒が多い。しかし、本音を語るというよりは道徳的価値に関する模範的な回答も多く、自分事として問題を捉えられていないことが多い。また、全体交流になると、教師と生徒の間答になってしまい、生徒同士での考えの交流が深まらず、一面的な考えに収束し、考えに広がりや深まりが見られないことも課題である。このことから、資料を自分自身と関わらせて考え、仲間との交流を活発にし、より多面的・多角的な視点で考えられるような道徳の時間を展開させたいと考えている。

(2) 教材観

本ユニットは、「好き」という言葉をキーワードに、生徒から出されたイメージ(恋、愛、好きな食べ物・教科・場所)から大きく「人に対する『好き』」と「人ではないものに対する『好き』」に分類し、それらに関連する三つの内容項目で構成した。まず、「人に関わる『好き』」について考える題材として、『中学校指導要領解説道徳編』のB[主として人との関わりに関する事]から、【友情, 信頼】「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」、また、【相互理解, 寛容】「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」これら2項目についての資料から学習する。その後、「人ではないものに関わる『好き』」について考える題材として、C[主として集団や社会との関わりに関する事]から、【郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度】「郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること」についての題材を加えることで、一つのテーマに対し、多面的・多角的に考え、深めていく。

人と関わったり、自分の行動を決めたりする際、その判断を自分の好き嫌いで簡単に判断してしまったり、物事を批判的に捉え「嫌い」ということを簡単に態度に表してしまったりすることがあるこの時期。だからこそ、「好き」という言葉をテーマに、様々な価値の資料をもとに多面的・多角的な視点で、「好き」という言葉に込められた思いを考えさせたい。そこから、表面的に捉えていた「好き」という感覚ではなく、相手の立場、状況、他者との関わりなど、「好き」という言葉の意味に目を向けられるようにしたい。そうすることで、「好き」という感情について、受け止める、大切にすること、何のためか考える、など、自己中心的ではなく広い心で物事を考えられるようになると考え、本ユニットを構成した。

(3) ユニットにおける学びの本質に迫る指導とその評価について

本校道徳科において、学びの本質とは、①道徳的諸価値についての理解を深め、自分自身の生活との関わりを考える、②他者と協働し、物事を広い視野から多面的・多角的に考える、③自己の生き方について考え、社会によりよく生きようと探求する、という三つの資質・能力を育成する過程であり、「道徳性をもって他者と協働し、社会によりよく生きようと探求する」ことと捉えている。

①学びの本質に迫るための指導について

指導の視点	
視点1 価値の明確化による道徳的諸価値の理解	『好き』ってどんな気持ち?という大きなテーマの中で、【男女の敬愛】、【相互理解・寛容】、【郷土愛】など、一単位時間当たりの道徳的諸価値を明確化させ、授業に臨ませる。
視点2 物事を多面的・多角的に考えるための手立て	資料によって、複数の視点を提示して考えさせることにより、より、自分自身の考えを深めさせる。また、自分の考えをもとに、グループや学級で他者と議論し、様々な考えを受容的に聞き入れることで、自分自身にはなかった新たな考えに気付かせたり、自分の考えの根拠をより具体的なものにさせる。
視点3 自己の考えを深めるための、表現・言語活動の工夫	自分の考えを表現したくとも、話すことや書くことを苦手とする生徒もいる。このことから、生徒自身の考えを見とるために、書く活動と、話す活動の二つを取り入れる。話す活動においても、全体交流の前にグループ交流をすることで、全員に自分の考えを表出させる場を設ける。

②評価について

(ア)「学びの本質に迫るための評価」～一単位時間当たりのパフォーマンスの評価～

評価の方法	
評価1 協働場面を生かした記述の見とり	グループや学級での議論において、自分の考えに新たな視点をもたらしたり、深まりをもたらしたりした考えを、学習シートに記入させることで、多面的・多角的な思考となっているかを見とる。 また、一単位時間ごとにグループや学級の議論の直後に振り返り活動を設定している。そこから、仲間の意見を踏まえつつ、問題場面における「今の立場」を言語化させ、議論で得た学びや気づきが深化しているかどうかを見とる。
評価2 学ぶ姿勢、学びの深まりに関わる自己評価の見とり	①今日の授業を“自分事として”考えることができましたか ②「なるほどな」と思うような意見や新たな気づきがありましたか ③今後の自分の生活に生かせそうな学びはありましたか 以上3点について、生徒がどういう意識で本時の授業に臨めたかを4段階で自己評価させ、生徒個人の自覚化を図る。また、生徒一人ひとりが、年間の道徳の授業の中で自己の考えを深められるよう、題材設定や授業改善のための評価としても見とっていく。

(イ)「学びの本質に迫ったかを見とる評価」～継続的な学びのポートフォリオの評価～

評価の方法	
評価3 中・長期的な学びの深化の見とり	毎時間の学習シートをポートフォリオする。また、ユニットの最終時間にテーマに対する振り返りを行い、記述の変容や深化を見とる。また、ユニットの中でも特に、生徒がより自分事として考えたり、多面的・多角的に考えたり、より良く生きよう(実践しよう)と考えたりした場面について見とり評価する。生徒へは、成長を励ます個人内評価として、コメント等で還していく。

3 ユニットの指導計画および評価計画

(1) 育成を目指す資質・能力

- ① 『好き』ってどんな気持ち?というテーマのもと、【友情・信頼】、【相互理解・寛容】、【郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】等の道徳的諸価値について理解を深め、資料や問いに対し自分自身の生活と関わらせて考える。
- ② 他者と協働し、『好き』ってどんな気持ち?というテーマについて、ユニットを通して、広い視野をもって多面的・多角的に考える。
- ③ 『好き』ってどんな気持ち?というテーマについてユニットを通して考えたことを自己の生き方に生かし、社会によりよく生きようと探求する。

(2) 指導目標

- ① 一単位時間当たりの道徳的諸価値，【友情・信頼】，【相互理解・寛容】，【郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度】等において自分事として考えさせ，各時間の価値理解の深化を促す。
- ② グループでの議論の中で，一つの視点からだけでなく，様々な視点から考えさせ議論を活性化させる。
- ③ ユニットを通して，他者の考えや様々な視点から考えたことをもとに，これからの生活に目を向けながら再度自分自身の考えを振り返らせ，社会によりよく生きようと探求する態度を促す。

(3) 評価の視点

	I. 道徳的諸価値についての理解を深める	II. 自分自身の生活との関わりを考える	III. 他者と協働し，物事を広い視野から多面的・多角的に考える	IV. 自己の生き方について考え，社会によりよく生きようと探求する
○ 迫るための評価	○ I 一単位時間当たりの学習において，自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。	○ II 一単位時間当たりの学習において，道徳的問題を自分事として考えている。	○ III 一単位時間当たりの学習において，道徳的問題を他者と協働し，多面的・多角的に考えている。	○ IV 一単位時間当たりの学習において，学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。
● 迫ったかを見とる評価		● II ユニットのテーマ『好き』ってどんな気持ち?』について考えたことと，自分自身の生活との関わりを考えている。	● III ユニットのテーマ『好き』ってどんな気持ち?』について，他者と協働し，広い視野から，多面的・多角的に考えている。	● IV ユニットのテーマ『好き』ってどんな気持ち?』について考えたことを，自己の生き方に照らし合わせ，社会によりよく生きようと探求している。

(4) 指導と評価の計画 (○本質に迫るための評価 ●本質に迫ったかを見とるための評価)

時	「資料」【内容項目】 ・学習内容 ◆指導の留意点	評価の視点
1	<p>「告白—『耳をすませば』より」【友情・信頼】</p> <p>・資料を読み，ユニットのテーマに沿った問いを立てる。</p> <p>【問い】「好き」についてあなたはどうか。</p> <p>・問いに対し，自分の考えと仲間の考えを議論させながら，様々な視点から考える。</p> <p>◆ユニットのテーマである「好き」という気持ちのイメージを自由に出させてから資料を読み，テーマに沿った問いを立てる。</p> <p>◆自分の経験に加え，仲間と議論することで様々な視点から考えさせる。</p>	<p>○ I 道徳的価値に基づいて，自分考えを明確に表している。(評価1)</p> <p>○ II 自分の経験と関わらせて，問いに関する意見や考えをもっている。(評価1・2)</p> <p>○ III 仲間の考えを受け止めながら聴き，自分の考えと関わらせている。また，様々な場面を想起しながら多面的・多角的に考えている。(評価1・2)</p> <p>○ IV 問いに対する答えを考え，今後の生活に生かそうとしている。(評価1・2)</p>

<p>2 本 時</p>	<p>「まるごと好きです」【相互理解・寛容】</p> <p>・資料を読み、ユニットのテーマに沿った問いを立てる。</p> <p>【問い】「まるごと好き」についてあなたはどうか。</p> <p>・問いに対し、自分の考えと仲間の考えを議論させながら、様々な視点から考える。</p> <p>◆前時での考えを紹介し、本時に関わる疑問を投げかけることで、本時へつなげていく。</p> <p>◆ユニットのテーマに沿った問いを立てる。</p> <p>◆自分の考えに加え、仲間と議論することで様々な視点から考えさせる。</p> <p>◆前時とも比較させながら本時の振り返りを書かせ、より、多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>●「人に対する『好き』」について、前時と本時での考えの深まりを見とる。</p>	<p>○Ⅰ 前時と関連したり、新たに考えたりした道徳的価値について自分の考えを深めている。(評価1)</p> <p>○Ⅱ 自分の経験と関わらせて、問いに関する意見や考えをもっている。(評価1・2)</p> <p>○Ⅲ 仲間の考えを受け止めながら聴き、自分の考えと関わらせている。また、様々な場面を想起しながら多面的・多角的に考えている。(評価1・2)</p> <p>○Ⅳ 問いに対する答えを考え、今後の生活に生かそうとしている。(評価1・2)</p> <p>●Ⅱ ユニットのテーマ『好き』ってどんな気持ち?』について考えたことと、自分自身の生活との関わりを考えている。(評価3)</p> <p>●Ⅲ ユニットを通して出た仲間の考えや様々な視点をもとに、より、多面的・多角的に考えている。(評価3)</p> <p>●Ⅳ 問いに対する答えを考え、今後の生活に生かそうとしている。(評価3)</p>
<p>3</p>	<p>「この町が好き」</p> <p>【郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】</p> <p>・資料を読み、ユニットのテーマに沿った問いを立てる。</p> <p>【問い】「この町が好き」についてあなたはどうか。</p> <p>・問いに対し、自分の考えと仲間の考えを議論させながら、様々な視点から考える。</p> <p>・人に対する「好き」という気持ちについて考えたこととも関わらせながら、ユニットを通して「好き」とはどんな思いかを考える。</p> <p>◆前時での考えを紹介し、本時に関わる疑問を投げかけることで、本時へつなげていく。</p> <p>◆ユニットのテーマに沿った問いを立てる。</p> <p>◆自分の経験に加え、仲間と議論することで様々な視点から考えさせる。</p> <p>◆「好き」という思いについて、人を対象として考えてきた視点に、人ではないものを対象とする視点を加えて問いについて考えさせ、視野を広げさせる。</p> <p>●「人ではないものに対する『好き』」について、「人に対する『好き』」での学習を生かした考えの深まりを見とる。</p>	<p>○Ⅰ 前時と関連したり、新たに考えたりした道徳的価値について自分の考えを深めている。(評価1)</p> <p>○Ⅱ 自分の経験と関わらせて、問いに関する意見や考えをもっている。(評価1・2)</p> <p>○Ⅲ 仲間の考えを受け止めながら聴き、自分の考えと関わらせている。また、様々な場面を想起しながら多面的・多角的に考えている。(評価1・2)</p> <p>○Ⅳ 問いに対する答えを考え、今後の生活に生かそうとしている。(評価1・2)</p> <p>●Ⅱ ユニットのテーマ『好き』ってどんな気持ち?』について考えたことと、自分自身の生活との関わりを考えている。(評価3)</p> <p>●Ⅲ ユニットを通して出た仲間の考えや様々な視点をもとに、より、多面的・多角的に考えている。(評価3)</p> <p>●Ⅳ 問いに対する答えを考え、今後の生活に生かそうとしている。(評価3)</p>

4 資料について

(1) 資料名 「まるごと好きです」(中学道徳② 心つないで 共育出版)より

(2) 資料のあらすじ

主人公は、人との出会いにおいて、「まず『まるごと好きになる』」という思いを抱いていた。田舎育

ちで、城下町に転校してきた主人公にとって、クラスの友達は、皆洗練されて上品に見えた。そういう友達の中には苦手な部分もあった。しかし、「まるごと好き」というのは、「嫌い」もひっくるめて好きという思いで、相手のいいところを見るようにしている。嫌いなどころも好きなどころも、どう見るかは自分次第。それが主人公の身に合ったやり方で、そう思うことによって、人とのつき合いも大変ではないと感じている。

この資料から「まるごと好きになる」という主人公の思いについて、それはどういうことなのか、前時で考えた「好き」に対する思いとも比べながら考えさせることによって、他者を受け入れる、他者を尊重し助け合うという意味での「好き」について迫っていく。

4 本時の構想

(1) ねらい

「まるごと好きになる」という筆者の主張に込められた思いを理解し、それぞれの個性や立場やものの見方・考え方を尊重しようとする態度を育てる。

(2) 本時の指導の構想

本時は、『中学校指導要領解説道徳編』のB[主として人との関わりに関すること]、【相互理解、寛容】「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」を道徳的価値の中心に据えて展開していく。

本時では、主に展開部で行う「『まるごと好きになる』についてあなたは どう思う？」という問いについての交流によって、生徒の考えの深化を図りたい。資料にあるように、人の良いところを見つけることの大切さについては、頭では分かっている生徒が多い。しかし、そうは思っている、自分の直感で好き嫌いを決めてしまうことも多いし、嫌いだと思ってしまったことを好きになるというのも実際は難しい。「あなたは」と問うことで自分の思いを表出させ、仲間の考えにも関心をもたせたい。その上で、「まるごと好きになる」とは、どういうことなのか、その言葉に込められた意味はなにか、なぜ筆者はそういう考えを持っているのか、グループや学級で自分自身の考えと関わらせながら議論していく。そこから、前時で扱った【友情・信頼】にもとづく「好き」という思いに加え、【相互理解、寛容】にもとづいて、他者を受け入れる、大切にす、助け合うという意味での「好き」という思いがあることに気付かせたい。また、「まるごと好き」という考え方が、他者に向けられている生徒が多くいることが予想される。そこで、『まるごと好き』とは誰のことを言っているのか」という問いから、他者に向けられた視点を自分に向けて考えさせたい。他者に対しては、できないと思いつつも受け入れるといったような考えが出されるだろう。しかしそれでは資料の読み取りに留まってしまふ。そこから考えを深めるためにも、自分に視点を向け、自分の弱さと向き合うことで、他者の弱さを許せたり、他者の良さを受け入れたりできるということに気付かせたい。

終末では、ユニット2時間にわたって考えてきたことをもとに、「好き」という気持ちについての考えを振り返り記述させる。2時間を通して同じテーマでも違う視点で学習したことをもとに、「好き」という気持ちについて改めて考えることで自分の考えに深化や変容またはさらなる疑問をもたらす、次時へつなげたい。

(3) 本時の展開

段階	学習活動および学習内容 ■ 学びの本質に迫る指導の工夫・予想される生徒の反応等	時間 (分)	指導上の留意点および評価 ○ 学びの本質に迫るための評価 ● 学びの本質に迫ったかを見とる評価

導入	<p>1 「まるごと好き」という言葉について考える。</p> <p>2 資料を読み、学習材を知る。 ・「まるごと好き」ってどういうこと？</p> <p>3 本時の問いを知る。</p> <p>◎【問い】「まるごと好きになる」についてあなたは どう思う？ ワークシート</p>	3 4 (7) 1 (8)	<p>・資料を読む前に「まるごと好き」という言葉について思ったことを自由に発言させ、関心を持たせる。</p>
展開	<p>4 問いについて考える。</p> <p>① 個人の考えと根拠を記入する。(3分)</p> <p>② グループで議論する。(15分)</p> <p>③ 学級で議論する。(10分)</p> <p>・嫌いなところを好きになることはできない。 ・良いところも悪いところも受け入れるのは大事だと思う。</p> <p>■視点2物事を多面的・多角的に考えるための手立て</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「まるごと好きになる」ことはなかなかできないと思うことに對し、人を見ている視点から、見られる視点に変えて考えさせる。</p> </div> <p>(できない) →見る側の視点だよな。 自分がみられる側だったらどう？</p> <p>■視点3自己の考えを深めるための、表現・言語活動の工夫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・問いについて、自分の考えを話し、他者の言葉や他のグループの言葉を聴きながら比較し、より自分自身の考えを深めさせる。</p> </div> <p>実はね、このお話全部じゃないんだ。 「まず をまるごと好きになる」何が入ると思う？ 「まるごと好き」最初は誰かを見る側だったけど、自分が見られる側だったらっていう2つの視点からたくさん考えてきたね。じゃあ、もう一回、受け入れるとか…のまるごと好きについてどう思うか、問いについてのところに書いてみよう。</p> <p>5 問いについてもう一度考える。 ・交流を通して、問いについての考えを記入させる。</p> <p>■視点1価値の明確化による道徳的諸価値の理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・交流をふまえ、様々な仲間の考えに触れながら、再度問いについて個人で考えさせることで、自分と他者とを関わらせて考える必要があることに気付かせる。</p> </div> <p>・自分にも失敗や欠点はあるから、互いに助け合っていくこと。 ・自分の短所と向き合うことによって相手の短所も許せるようになると思う。また相手を批判してばかりだと自分も高まっていけない。他の人のいいところから学べるようにしたい。</p>	28 (36) 5 (41) 20分前 10:30	<p>・グループでの議論で考えが広がらなかった場合、新たな視点を提示して考えさせる。</p> <p>・自分だったらという視点で考えさせることで、客観的ではなく、自分事として考えさせる。</p> <p>【議論の見とり】・【メモの記述】 【問いについての記述】</p> <p>○I 前時と関連したり新たに本時で考えたりした道徳的価値について、自分の考えを深めている。(評価1)</p> <p>○II 自分の経験と関わらせて、問いに関する意見や考えをもっている。(評価1・2)</p> <p>○III 仲間の考えを受け止めながら聴き、自分の考えと関わらせている。また、様々な場面を想起しながら多面的・多角的に考えている。(評価1・2)</p> <p>○IV 問いに対する答えを考え、今後の生活に生かそうとしている。(評価1・2)</p>
終結	<p>～って考えたんだね。ねえ、みんなさ、やなせたかしさんって知ってる？まさに～作者。そのやなせさんがね、こんなこと言うてるんだよ。「人は、欠点がない人を、好きにはなりませんよ。」さあ、では、前は恋愛の好きについて、今日はまるごと好きについて考えた今、好きっていう気持ちについてどう思うか、振り返りに書いてごらん。</p> <p>6 前時と本時の学習から考えた「好き」という気持ちについて振り返りをする。</p> <p>■視点1価値の明確化による道徳的諸価値の理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・グループや全体交流をふまえ、様々な仲間の考えに触れながら、再度「好き」という思いについて個人で考えさせることで、好きという言葉に込められた、互いを受け入れることや助け合うことの大切さに気付かせる。</p> </div> <p>・「好き」という気持ちには様々な意味がある。まずは自分を好きになれるくらい自分の欠点と向き合うことで、誰かを大切にしたり、認め合ったりできるのだと思う。</p> <p>7 全体で交流する。</p> <p>8 本時について自己評価する。</p>	4 (45) 4 (49) 1 (50)	<p>【振り返りの記述】・【自己評価】</p> <p>●II ユニットのテーマ『好き』ってどんな気持ち？について考えたことと、自分自身の生活との関わりを考えている。(評価3)</p> <p>●III ユニットを通して出た仲間の考えや様々な視点をもとに、より、多面的・多角的に考えている。(評価3)</p> <p>●IV 問いに対する答えを考え、今後の生活に生かそうとしている。(評価3)</p>

まるごと好きです 工藤直子

まず「まるごと好きになる。」
話はそれからだ。いつのまにかそんなふうに出会っていた。

彦根は、こぢんまりした城下町だ。琵琶湖のそばの彦根城を中心に桜と柳の並木が美しい。彦根は大会ではないのだけれど、田舎から来た身には、とてもぎやかで華やかに思えた。

転校してきた中学は、石造りの校門に沿って、うっそうとくすのきも、しつとり古びて上品だった。

町や学校ばかりでない。クラスの友達も皆洗練されて上品に見えた。お寺の娘さんで、色白のまきちゃん。笑うとエクトポが二つできて、清潔な少女である。田舎では、わら草履を履いて走り回り、服に回しても平気だった私も、京子さんを見習って、服の汚れをベンジンで拭き、髪を押ししたりすることを覚えた。

沢本さんは、日本舞踊を習っていると聞いて憧れてしまった。踊りのこなしは優雅である。椅子に腰をおろすとき、スカートをすっくとさげる。戸を開け閉めするのもしとやかだ。呼ばれて振り返る姿が美しく、と手渡してくれだ。その時の差し出しにびっくりしたのを覚えている。こういう身のこなしは、一朝一夕に、なんでもまねしたい私も、沢本さんだけは眺めているだけだったが、数学が抜群の石田さんは、国語や社会の時間でも、休み時間でも、数学が本を読んだり、参考書の問題を解いたりする人である。それも、うちがマンガや小説を読む気分なのだ。信じられないような人だとひゆみちゃんは、早くから将来の方針を決めていた。勉強嫌いが、歌をいかに仕事に就きたいと言っていたが、高校を卒業したの民間放送局の合唱団に入った。

バスケットボールで素早いプレーを見せるまきちゃんもクラスメイトの才能、優雅な身のこなしや話し方などは、まねしても身につくはずならなんとかなりそうだった。まきちゃんのバスケット姿にひかれたボール部に入部した。これがきっかけで、高校を卒業するまでバスケットになる。

中学の頃から、人と出会うときは、とりあえず、まずまるごと好きになる、というふうになってきた。会ったとき、まず、相手の人の好きな部分のほうを先に探し出すのである。好きなところを見つけて、「うん！」と、その人をまるごと好きになる。嫌いなところを見つけてはあつてよるしい。嫌いなところがあつてもべつにかまわないじゃないか。とにかくまるごと好き、というのは、「嫌い」もひっくるめて好きなことである。そのうえで、その人の、好きな部分にだけパチパチと拍手する。

例えば、静かな小さな声で話すまきちゃんは、気持ちの優しい人で、一緒にいるとこちらまでほのぼのと温かくなるような気がしてくる。私は、その優しさが好きだった。しかし一方、まきちゃんは極端に臆病で引込み思案だった。ちょっとした失敗に、いつまでもくよくよして、そんなときは、どんよりと暗くなって、どうしようもなく陰気である。こういう部分は、私は苦手である。みんなも、そんなまきちゃんを敬遠する。事実、まきちゃんには、ほとんど友達がいなかった。

しかし私は、まきちゃんの優しさが好きなのだ。陰気な人だからと敬遠して、彼女の優しさを手放す気はない。

まきちゃんが陰気になつてくるときは、そのことは、そっとしておいた。というより、放っておいた。慰めたり忠告したりするのは苦手だ。同情もしない。同情のつもりがおせっかいだつたりかねないから。

そのかわり、まきちゃんの優しさとところは丁寧に見つけた。まきちゃんの、ちょっとした身ぶり、言葉の中からも、優しさを発見した。そして拍手を送り続ける。

まきちゃんのためにはない。私が、そんなまきちゃんが好きだからだ。——たぶん、私は他のみんなより、まきちゃんの優しさをたくさん見つけたのじゃないかな。

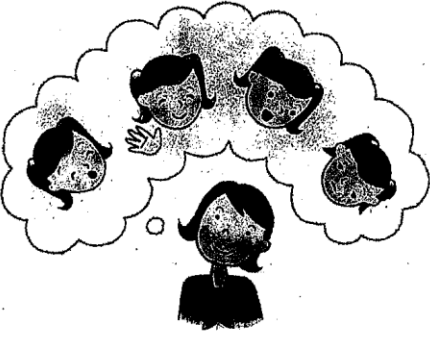
こうやって、まきちゃんを、陰気な部分もひっくるめて、まるごと好きになると、いつの間にか彼女と仲よしになって、まきちゃんも私も私といふときは、私の好きな優しい部分を最大限に発揮してくれるので、こちらからはますますありがたい。いいもの見つけてトクをした、とうれしくなるのである。

「完璧な人」というのは、これはまあいい。よいところも、イヤなところも持っているのが普通だ。だから、人をどっちの部分で見ると、その見方によって、別人のように見えるものだ。まきちゃんを、優しさを面から見るか、陰気な部分で評価するか、まきちゃんという一人の人から、何人ものまきちゃんが現れる。

あるインドの哲学者が、「世界は自己の投影図だ。」と語ったそうだ。人や物を見ると、人や物そのものを見るのではなく、自分の心の自分の思いの色をつけて見る——自己を投影した世界を見ているというのだ。本当にそうだな、と思うことがある。いろんな見方の中から、その方法を選ぶことに決めたのだ。……決めた、というより、あれこれやってみると、そうだったというべきかな。結局、これが自分の身に合ったやり方なので、身に合っていれば、たくさんの人とつきあっても、そう大変でもないし、疲れない。

●著者 工藤直子（一九三〇年）自叙伝『まきちゃん』のほらうなあいだ、など、数冊に『月夜のみみず』、『みんないささかみんなていきて』などがある。
●出身 東京都目黒区

●著者 工藤直子（一九三〇年）自叙伝『まきちゃん』のほらうなあいだ、など、数冊に『月夜のみみず』、『みんないささかみんなていきて』などがある。
●出身 東京都目黒区



氏名

☆問い

